

(9) 評価結果表示シート〔出力用〕

■ 「評価結果表示シート」は、Q（建築物の環境品質）、LR（建築物の環境負荷低減性）およびBEE（建築物の環境効率）、ライフサイクルCO₂排出率の結果がグラフと数値で表示されます。（図Ⅱ-3-9～11 参照）

CASBEE[®]学校-改修 (改修後) 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE学校 (新築・改修編) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE_SCH-RN_2010(v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新〇〇中学校	階数	地上2F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造
用途地域	都市計画区画外、防火地域指定なし	平均居住人員	100人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,140時間/年
建物用途	学校	改修後の想定使用年数	30年
改修竣工年月	2008年12月 予定	改修工事期間	2006年7月～2007年3月
新築竣工年月	1976年	評価の実施日	2010年9月1日
敷地面積	38,064 m ²	作成者	〇〇〇
建築面積	2,881 m ²	確認日	2010年9月10日
延床面積	3,600 m ²	確認者	〇〇〇
改修目的	断熱性能の向上による温熱環境改善、暖房エネルギーの削減。光環境の改善。	現在までの主な改修履歴	校舎 昭和53年改修 体育館 昭和54年改修
		改修対象項目	躯体 既存利用 外装 全面外断熱 内装 全面改修 設備 全面改修
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 1.9 ★★★★★☆ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B': ★★★★★ C: ★		標準計算 ①参照値 100% ②建築物の取組み 96% ③上記+②以外のオンサイト手法 96% ④上記+オフサイト手法 96%	
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)			
2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質 Qのスコア = 3.9			
Q1 室内環境 Q1のスコア = 4.0 音環境 3.7, 温熱環境 4.7, 光・視環境 3.8, 空気質環境 3.3	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6 機能性 4.4, 耐用性・信頼性 3.3, 対応性・更新性 2.9	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.1 生物環境 4.0, まちなみ・景観 4.0, 地域性・アメニティ 4.5	
LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4			
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4 建物の熱負荷 4.0, 自然エネルギー 4.0, 設備システム効率化 2.0, 効率的運用 4.0	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.7 水資源保護 3.4, 非再生材料の使用削減 4.0, 汚染物質回避 3.0	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.3 地球温暖化への配慮 3.1, 地域環境への配慮 3.4, 周辺環境への配慮 3.5	
3 設計上の配慮事項			
総合 曇天日の多いこの地域の特徴を活かして、屋根スラブをガラスとする、大胆な改修によって、明るい学校となった。		その他 「ひかりのみち」廊下のガラス屋根からの光を教室にも取り入れ、両面採光により、照明エネルギーを抑えるとともに、光環境の改善した。	
Q1 室内環境 屋根・壁を100mmの外断熱を付加した。(改修前は25mmの内断熱) 改修前後とも放射暖房を行っているが、改修前は断熱不足で、暖かくならなかったが、改修によって改善され	Q2 サービス性能 耐震性能は改修前も基準を満たしていたが、防災拠点としても耐えられるように、軽量化による耐震性能の向上を行った。	Q3 室外環境(敷地内) 校庭の緑化、地域の人達の集まるひかりのみち(廊下)	
LR1 エネルギー 断熱性能向上によるエネルギーの削減。昼光照明による照明電力の削減。高効率照明機器の導入。	LR2 資源・マテリアル 節水型トイレの導入。既存躯体の利用。	LR3 敷地外環境 電気による放射暖房で、大気汚染防止。校庭の緑化による温熱環境悪化の防止。	

図Ⅱ-3-9 評価結果表示シート (出力例) 改修後 (結果)

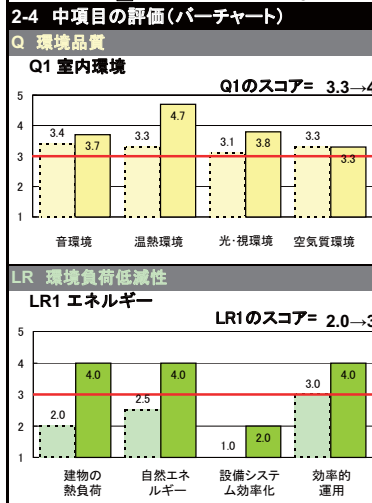
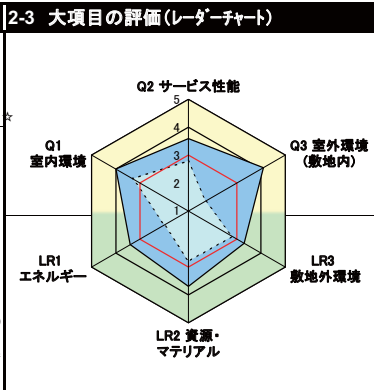
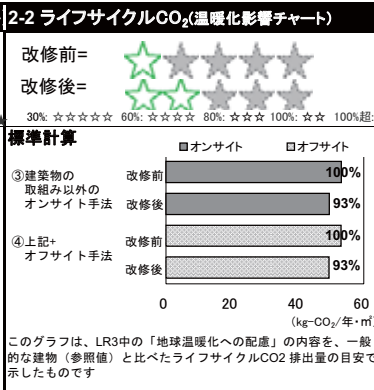
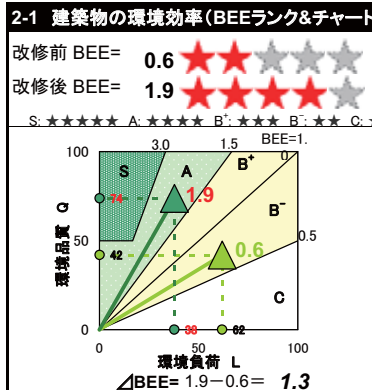
CASBEE[®] 学校-改修 (改修前) 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE学校 (新築・改修編) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE_SCH-RN_2010(v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旧〇〇中学校	階数	地上2F
建設地	〇〇県〇〇市	構造	RC造
用途地域	都市計画区画外、防火地域指定なし	平均居住人員	100人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,140時間/年
建物用途	学校	評価の実施日	2010年9月1日
新築時竣工年月	1976年	作成者	〇〇〇
経過年数	33年	確認日	2010年9月10日
敷地面積	38,064 m ²	確認者	〇〇〇
建築面積	2,881 m ²	現在までの主な改修履歴	校舎 昭和53年改修 体育館 昭和54年改修
延床面積	3,600 m ²		
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
<p>BEE = 0.6</p>			
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)		2-4 中項目の評価(バーチャート)	
		<p>Q のスコア = 2.6</p> <p>LR のスコア = 2.5</p>	
<p>3 設計上の配慮事項</p> <p>総合 曇天日の多いこの地域の特徴を活かして、屋根スラブをガラスとする、大胆な改修によって、明るい学校となった。</p>		<p>その他 「ひかりのみち」廊下のガラス屋根からの光を教室にも取り入れ、両面採光により、照明エネルギーを抑えとともに、光環境の改善した。</p>	
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3</p>		<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8</p>	
<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 1.7</p>		<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.0</p>	
<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8</p>		<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8</p>	
<p>Q1 室内環境 屋根・壁を100mmの外断熱を付加した。(改修前は25mmの内断熱) 改修前後とも放射暖房を行っているが、改修前は断熱不足で、暖かくならなかったが、改修によって改善され</p>		<p>Q2 サービス性能 耐震性能は改修前も基準を満たしていたが、防災拠点としても耐えられるように、軽量化による耐震性能の向上を行った。</p>	
<p>LR1 エネルギー 断熱性能向上によるエネルギーの削減。昼光照明による照明電力の削減。高効率照明機器の導入。</p>		<p>LR2 資源・マテリアル 節水型トイレの導入。既存躯体の利用。</p>	
<p>Q3 室外環境 (敷地内) 校庭の緑化、地域の人達の集まるひかりのみち(廊下)</p>		<p>LR3 敷地外環境 電気による放射暖房で、大気汚染防止。校庭の緑化による温熱環境悪化の防止。</p>	

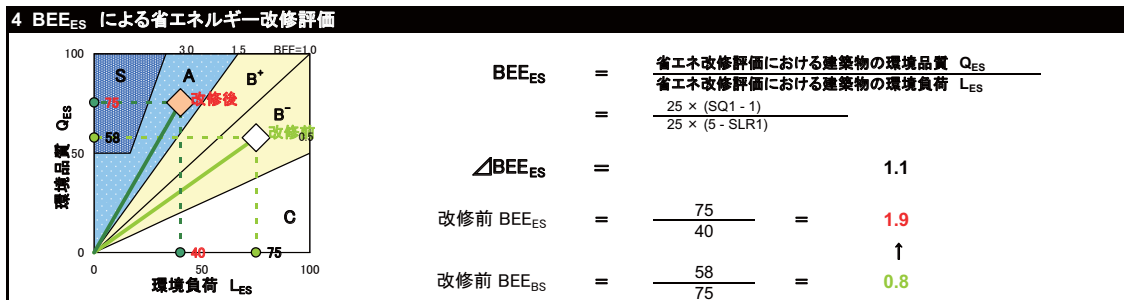
図 II-3-10 評価結果表示シート (出力例) 改修前 (結果)

1-1 建物概要		改修後		改修の概要	
建物名称	旧○○中学校	建物名称	新○○中学校	現在までの主な改修履歴	校舎 昭和53年改修 体育館 昭和54年改修
建物用途	学校	建物用途	学校	改修後の想定使用年数	30年
新築時の竣工年	1976年	改修竣工年	2008年12月	改修目的	断熱性能の向上による温熱環境改善、暖房エネルギー削減
建築面積	2,881.00 m ²	建築面積	2,881.00 m ²	改修対象項目	既存利用
延床面積	3,600.00 m ²	延床面積	3,600.00 m ²	躯体	全面断熱
階数	地上2F	階数	地上2F	内装	全面改修
構造	RC造	構造	RC造	設備	全面改修
平均居住人員	100人	平均居住人員	100人	改修工事期間	2006年7月～2007年3月
年間使用時間	2140時間/年	年間使用時間	2140時間/年		



3 設計上の配慮事項

総合	その他
曇天日の多いこの地域の特徴を活かして、屋根スラブをガラスとする、大胆な改修によって、明るい学校となった。	「ひかりのみち」廊下のガラス屋根からの光を教室にも取り入れ、両面採光により、照明エネルギーを抑えるとともに、光環境の改善した。
Q1 室内環境 屋根・壁を100mmの外断熱を付加した。(改修前は25mmの内断熱) 「ライフサイクルCO ₂ 」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと 改修前後とも放射暖房を行っているが、改修前は断熱不足で、暖かくならなかつたが、改修によって改善された。	Q2 サービス性能 耐震性能は改修前も基準を満たしていたが、防災拠点としても耐えられるように、軽量化による耐震性能の向上を行った。
LR1 エネルギー 断熱性能向上によるエネルギーの削減。昼光照明による照明電力の削減。高効率照明機器の導入。	LR2 資源・マテリアル 節水型トイレの導入。既存躯体の利用。
	LR3 敷地外環境 電気による放射暖房で、大気汚染防止。校庭の緑化による温熱環境悪化の防止。



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

図Ⅱ-3-11 評価結果表示シート(出力例) 改修前後の比較(結果)

評価結果表示シートの詳細を以下に示します。

項目	内容
1 建物概要	評価建築物の概要
2 CASBEE の評価結果	グラフによる評価結果表示
2-1 建築物の環境効率 (BEE ランク&チャート)	Q、L の評価結果と BEE の表示 赤星によるランク表示
2-2 ライフサイクル CO ₂ (温暖化影響チャート)	参照する建物と評価建物の LCCO ₂ 表示 緑星によるランク表示
2-3 レーダーチャート	分野ごとの評価結果をレーダーチャート表示
2-4 バーチャート	分野ごとの評価結果を棒グラフ表示
	「Q：建築物の環境品質」における評価結果
	「LR：建築物の環境負荷低減性」における評価結果
3 設計上の配慮事項	設計上の配慮事項の表示

表 II-3-2 評価結果表示シートの表示内容

1 建物概要

- (1) メインシートで入力した「①建物概要」の建物名称、用途、場所、規模、構造などが自動表示されます。

2 CASBEE 学校の評価結果

- 建築物自体に関わる環境性能評価項目の評価結果が表示されます。この欄はスコアシートで集計された各採点項目の入力結果を基にグラフ表示されます。
- 各評価項目のスコアは、小数点以下 2 桁目を切り捨て処理された数値が表示されます。なお、各項目のスコア算出にあたっては、有効桁数の処理 (丸め) を行っていない数値をもとに集計を行っています。

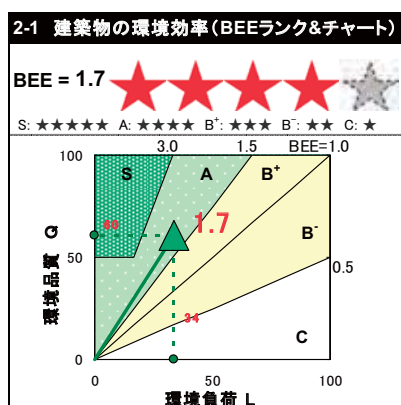
2-1 建築物の環境効率 (BEE : Built Environment Efficiency)

- Q (建築物の環境品質) と L (建築物の環境負荷) の評価結果から算出される「建築物の環境効率 : BEE」を表示します。Q と L の値はそれぞれ Q 分野の総合得点 SQ および LR 分野の総合得点 SLR から導かれます。
- ここで、まず分子の Q は建築物の環境品質の得点 SQ (1 点 ~ 5 点) を Q のスケールである 0 ~ 100 の数値に変換するため、 $Q = 25 \times (SQ - 1)$ と定義します。一方、分母の L は、環境負荷低減性の得点 SLR (1 点 ~ 5 点) をやはり環境負荷 L のスケールである 0 ~ 100 の数値に変換するため、 $L = 25 \times (5 - SLR)$ と定義します。
- **BEE** は、小数点以下 2 桁目を切り捨て処理された数値が表示されます。なお、**BEE** 算出にあたっては、有効桁数の処理 (丸め) を行っていない数値をもとに最終的な **BEE** までの計算を行っています。

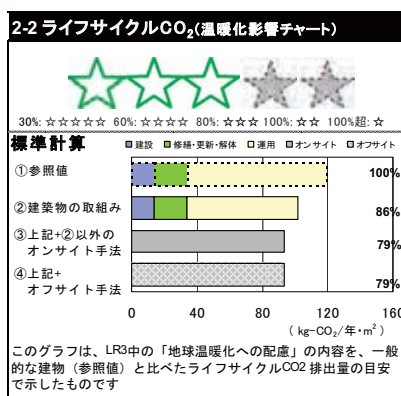
- 図Ⅱ-3-12 の下段は、縦軸にQ、横軸にLをとってBEEを表示したグラフで、原点(Q=0、L=0)およびQ値とL値の座標点を結ぶ直線の傾斜がBEE値を示します。Q値が高く、L値が低いほどこの傾斜が大きくなり、よりサステナブルな性向を持った建築物と評価できます。CASBEEでは、この傾きによってC(劣っている)からB⁻、B⁺、A、S(大変優れている)の5ランクに分割される領域によって建築物の総合的な環境性能評価結果をランキングします。図Ⅱ-3-12の上段は、各段階を赤星の数で示したものです。

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

- 参照値と評価対象のライフサイクルCO₂が棒グラフで表示されます。参照値におけるライフサイクルCO₂排出量を100%したときの評価対象の排出率(%)が表示されます。(図Ⅱ-3-13参照)
- ① 参照値(省エネ法の建築主の判断基準に相当する省エネ性能などを想定した標準的な建物のライフサイクルCO₂)
 - ② 評価対象建物のライフサイクルCO₂: 建築物での取組み(エコマテリアルや建物の長寿命化、省エネルギーなどの取組み)を評価した結果
 - ③ 上記+②以外のオンサイト手法(敷地内の太陽光発電など)を利用した結果
 - ④ 上記+オフサイト手法(グリーン電力証書、カーボンクレジットの購入など)を利用した結果
- なお、標準計算においては、③と④は同じ数値が表示されます。



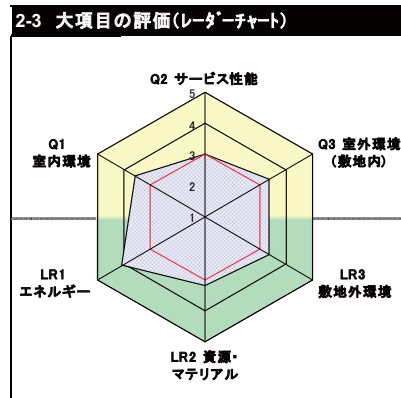
図Ⅱ-3-12 2-1の拡大(BEEと赤星による表示)



図Ⅱ-3-13 2-2の拡大(ライフサイクルCO₂と緑星による表示)

2-3 レーダーチャート

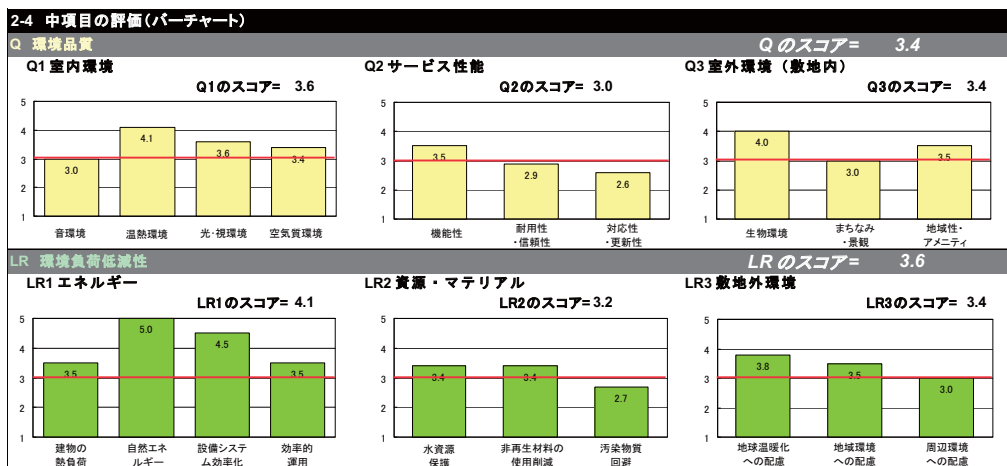
- さらに、Q1 からLR3 まで6 分野毎の得点が左上のレーダーチャートに一括して示され、対象建築物における環境配慮の特徴が一目でわかるようになっています。(図Ⅱ-3-14 参照)



図Ⅱ-3-14 2-3の拡大 (レーダーチャートによる表示)

2-4 バーチャート

- Q (建築物の環境品質) は、表の上欄に「Q1 室内環境」、「Q2 サービス性能」、「Q3 室外環境 (敷地内)」の分野ごとの評価結果が棒グラフで表示されます。また、LR (建築物の環境負荷低減性) は表の下欄に、「LR1 エネルギー」、「LR2 資源・マテリアル」、「LR3 敷地外環境」の評価結果が同様に表示されます。(図Ⅱ-3-15 参照)



図Ⅱ-3-15 評価結果表示シート 2-4の拡大 (バーチャートによる表示)

3 設計上の配慮事項

- 評価建物の環境配慮の全体像を第三者が把握し易くするために、環境配慮設計における配慮事項を表示する。配慮事項記入シートの、「総合」、「Q1」～「LR3」、「その他」の各欄に記述された内容がそのまま表示されます。(図Ⅱ-3-16 参照)

3 設計上の配慮事項		
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。		その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてC A S B E Eで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	Q3 室外環境（敷地内） 注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

図II-3-16 設計上の配慮事項

3-2 採点基準

採点基準の構成

- CASBEE 学校の改修編で評価する項目は、評価項目一覧（165～168ページ）のとおり設定されています。
- 評価する項目は、評価項目一覧表の「○」の項目とし、「△」および「▲」の項目は評価を省略できます。（その場合計算上レベル3として自動計算される。）
- 「▲」の項目は、CASBEE-新築（簡易版）の評価基準を用いて別途評価することができます。

（共通）

- CASBEE 学校による評価手法は、建物の総合的な性能評価を行うために建物の各性能等について、包括的に評価を行うものであり、各項目の評価基準はできるだけ評価内容の標準化、簡略化を図っています。このため、それぞれの学校で新築や改修等を行う場合には、当該学校の実情に応じ、本評価手法に示していない法令その他の基準を遵守する必要があります。

採点基準の読み方

①評価項目

- ・ 評価項目一覧の評価項目を示します。

②評価建物

- ・ 当該評価項目において■の印のついている方の建物を評価します。
- ・ 校舎、体育館ともに■がついている場合は、それぞれで評価した**評価基準のレベル**（1～5）を校舎、体育館の面積で加重平均し、四捨五入した整数を採用レベル値とします。

③評価内容

- ・ 評価項目に対する評価内容を示します。

④適用条件

- ・ 評価するための条件を示します。

⑤評価方法

- ・ 評価のための具体的な方法、留意事項などを示します。
- ・ 評価項目によっては「学校環境衛生基準」に基づき毎年実施される定期的な環境測定の結果を用いて評価します。

⑥評価基準

- ・ レベル1～5の評価基準を示します。
- ・ 評価基準に「空欄」と「(該当するレベルなし)」と記載されている欄がありますが、「(該当するレベルなし)」となっている場合は、該当するレベルについては採点しないことを意味し、「空欄」の場合は、その中間レベルを任意に採点可能なことを表しています。

⑦解説

- ・ 評価基準による採点を補足するための説明や図解による解説をしています。

⑧参考・文献

- ・ 評価するための資料や参考文献について示しています。

①評価項目 ②評価建物

③評価内容

Q 建築物の環境品質【Q1 室内環境】

1. 音環境

1.1 騒音

1.1.1 室内騒音レベル

評価建物 校舎 体育館

④適用条件

評価内容	騒音レベルを評価する。
適用条件	普通教室を評価対象とする。

⑤評価方法

評価方法

- 設計段階に目標とする騒音レベルにより評価する。
- 室内騒音レベルは、交通騒音などの外部騒音及び設備騒音を対象とする。
- 騒音レベルについて配慮している場合はレベル3とする。

⑥評価基準

レベル	評価基準
レベル1	(該当するレベルなし)
レベル2	(該当するレベルなし)
レベル3	騒音レベルについて配慮している。
レベル4	35dB(A) < [階騒音レベル] ≤ 45dB(A)
レベル5	[階騒音レベル] ≤ 35dB(A)

⑦解説

解説

- 「騒音について配慮している」とは、「学校環境衛生基準」において、児童生徒等及び職員の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として定められている騒音レベル（下表）について配慮されていることを言う。

[学校環境衛生基準]

検査項目	基準
騒音レベル	教室内の等価騒音レベルは、窓を閉じているときは LAeq50dB（デシベル）以下、窓を開けているときは LAeq55dB 以下であることが望ましい。

- レベル3には、望ましい騒音レベルを確保するために、敷地周辺の交通騒音に対し、防音サッシ等の設置、校舎配置、教室の向き等の配慮による対策がなされていることも含まれる。
- 設計段階にレベル4、5に対応した騒音レベルを目標とする場合は、該当するレベルとする。

dB(A)	20	25	30	35	40	45	50	55	60
NC-NR	10-15	15-20	20-25	25-30	30-35	35-40	40-45	45-50	50-55

うるささ 無音感———非常に静か———特に気にならない——騒音を感ずる——騒音を無感できない

会話・電話への影響 5m離れてできる——10m離れて会話可能——普通会話(3m以内)———大声会話(3m)や大声が聞こえる 電話は来着なし———電話は可能———電話やや困難

用途	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル	許容騒音レベル
スタジオ	映画館	アトラクション	ライブハウス	パルクエ	美術館	一軒家	一軒家	一軒家	一軒家
集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール	集合ホール
病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院	病院
ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅	ホテル・住宅
一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所	一般事務所
公共建物	公共建物	公共建物	公共建物	公共建物	公共建物	公共建物	公共建物	公共建物	公共建物
学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育	学校・教育
商業建物	商業建物	商業建物	商業建物	商業建物	商業建物	商業建物	商業建物	商業建物	商業建物

■室内許容騒音レベル

(出典：「建築設計資料集 環境」日本建築学会編 2007)

⑧参考・文献

参考・文献

- 学校環境衛生基準（平成21年文部科学省告示第60号）
- 学校環境衛生管理マニュアル（平成22年文部科学省）
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1292482.htm（文部科学省HP）

図II-3-17 採点基準の読み方

評価項目一覧（改修編）

新築編及び既存編により採点する。

● CASBEE 学校の評価項目一覧

凡例

○：評価をするもの。

△：評価をしなくてよいもの（レベル3で評価）。ただし、本手引きの評価シート（新築編に掲載）により、詳細な評価を行うことができる。

▲：評価をしなくてよいもの（レベル3で評価）。ただし、「CASBEE 既存（簡易版）」により評価を行うことができる。

評価項目	CASBEE 学校				(参考) CASBEE 簡易版	
	改修前		改修後		既存編	新築編
	既存編	ページ	新築編	ページ		
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 騒音						
1 室内騒音レベル	○	195	○	34	○	○
2 設備騒音対策						
1.2 遮音						
1 開口部遮音性能			○	35		○
2 界壁遮音性能	△		○	36	○	○
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）	△		○	37	○	○
4 界床遮音性能（重量衝撃源）	△		○	38	○	○
1.3 吸音	△		○	39	○	○
2 温熱環境						
2.1 室温制御						
1 室温／室温設定	○	196	○	40	○	○
2 負荷変動・追従制御性						
3 外皮性能	△		○	41	○	○
4 ゾーン別制御性						
5 温度・湿度制御						
6 個別制御						
7 時間外空調に対する配慮						
8 監視システム						
2.2 湿度制御	○	197	○	42	○	○
2.3 空調方式			○	43		○
1 上下温度差						
2 平均気流速度	△				○	
3 光・視環境						
3.1 昼光利用						
1 昼光率	△		○	44	○	○
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	△		○	45	○	○
3.2 グレア対策						
1 照明器具のグレア						
2 昼光制御			○	46		○
3 映り込み対策	○	198			○	
3.3 照度	○	199	○	47	○	○
3.4 照明制御	△		○	48	○	○
4 空気質環境						
4.1 発生源対策						
1 化学汚染物質	○	200	○	49	○	○
2 アスベスト対策	○	201			○	
3 ダニ・カビ等	○	202				
4 レジオネラ対策	▲				○	
4.2 換気						
1 換気量	○		○	50	○	○
2 自然換気性能	△		○	51	○	○
3 取り入れ外気への配慮	△		○	52	○	○
4 給気計画						
4.3 運用管理						
1 CO ₂ の監視	△		○	53	○	○
2 喫煙の制御	△		○	54	○	○
小計（○の数をカウント）	9		21		22	21

● CASBEE 学校の評価項目一覧

凡例

○：評価をするもの。

△：評価をしなくてもよいもの（レベル3で評価）。ただし、本手引きの評価シート（新築編に掲載）により、詳細な評価を行うことができる。

▲：評価をしなくてもよいもの（レベル3で評価）。ただし、「CASBEE 既存（簡易版）」により評価を行うことができる。

評価項目	CASBEE 学校				(参考) CASBEE 簡易版	
	改修前		改修後		既存編	新築編
	既存編	ページ	新築編	ページ		
Q2 サービス性能						
1 機能性						
1.1 機能性・使いやすさ						
1 広さ・収納性	○	205	○	56	○	○
2 高度情報通信設備対応						
3 バリアフリー計画	○	207	○	58	○	○
1.2 心理性・快適性						
1 広さ感・景観	△		○	59	○	○
2 リフレッシュスペース						
3 内装計画	△		○	60	○	○
1.3 維持管理						
1 総合的な取組み / 維持管理に配慮した設計	△		○	61	○	○
2 清掃管理業務 / 維持管理用機能の確保	○	208	○	62	○	○
3 衛生管理業務	○	210			○	
2 耐用性・信頼性						
2.1 耐震・免震						
1 耐震性	○	212	○	63	○	○
2 免震・制振性能	△		○	64	○	○
2.2 部品・部材の耐用年数						
1 躯体材料の耐用年数	△		○	65	○	○
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	△		○	66	○	○
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			○	67		○
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	△		○	68	○	○
5 給排水配管の更新必要間隔	○	213	○	69	○	○
6 主要設備機器の更新必要間隔	△		○	70	○	○
2.3 適切な更新						
1 屋上（屋根）・外壁仕上げ材の更新	○	214			○	
2 配管・配線材の更新	▲				○	
3 主用設備機器の更新	▲				○	
2.4 信頼性						
1 空調・換気設備	△		○	71	○	○
2 給排水・衛生設備	△		○	72	○	○
3 電気設備	△		○	73	○	○
4 機械・配管支持方法	△		○	74	○	○
5 通信・情報設備	△		○	75	○	○
3 対応性・更新性						
3.1 空間のゆとり						
1 階高のゆとり	△		○	76	○	○
2 空間の形状・自由さ	△		○	77	○	○
3.2 荷重のゆとり	△		○	79	○	○
3.3 設備の更新性						
1 空調配管の更新性	△		○	80	○	○
2 給排水管の更新性	△		○	81	○	○
3 電気配線の更新性	△		○	82	○	○
4 通信配線の更新性	△		○	83	○	○
5 設備機器の更新性	△		○	84	○	○
6 バックアップスペースの確保	△		○	85	○	○
小計（○の数をカウント）	7		28		31	28
Q3 室外環境（敷地内）						
1 生物環境の保全 / 生物環境の保全と創出	○	216	○	87	○	○
2 まちなみ・景観への配慮	△		○	89	○	○
3 地域性・アメニティへの配慮						
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	○	218	○	91	○	○
3.2 敷地内温熱環境の向上	△		○	93	○	○
	2		4		4	4

● CASBEE 学校の評価項目一覧

凡例

○：評価をするもの。

△：評価をしなくてよいもの（レベル3で評価）。ただし、本手引きの評価シート（新築編に掲載）により、詳細な評価を行うことができる。

▲：評価をしなくてよいもの（レベル3で評価）。ただし、「CASBEE 既存（簡易版）」により評価を行うことができる。

評価項目	CASBEE 学校				(参考) CASBEE 簡易版	
	改修前		改修後		既存編	新築編
	既存編	ページ	新築編	ページ		
LR 建築物の環境負荷低減性						
LR1 エネルギー						
1 建物の熱負荷抑制	○	222	○	96	○	○
2 自然エネルギー利用						
2.1 自然エネルギーの直接利用	○	224	○	98	○	○
2.2 自然エネルギーの変換利用	○	226	○	100	○	○
3 設備システムの高効率化					○	○
3.1 空調設備	○	228	○	102		
3.2 換気設備						
3.3 照明設備	○	229	○	103		
3.4 給湯設備						
3.5 昇降機設備						
3.6 エネルギー利用効率化設備						
4 効率的運用						
4.1 モニタリング	△		○	104	○	○
4.2 運用管理体制	○	230	○	106	○	○
小計 (○の数をカウント)	6		7		6	6
LR2 資源・マテリアル						
1 水資源保護						
1.1 節水	○	232	○	108	○	○
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						
1 雨水利用率 / 雨水利用システム導入の有無	○	233	○	109	○	○
2 雑排水利用率 / 雑排水等利用システム導入の有無	△		○	110	○	○
2 非再生性資源の使用量削減						
2.1 材料使用量の削減	△		○	111	○	○
2.2 既存建築躯体等の継続使用	△		○	112	○	○
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	△		○	113	○	○
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	△		○	114	○	○
2.5 持続可能な森林から産出された木材	△		○	116	○	○
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	△		○	118	○	○
3 汚染物質含有材料の使用回避						
3.1 有害物質を含まない材料の使用	△		○	119	○	○
3.1 フロン・ハロンの回避						
1 消化剤						○
2 発泡剤（断熱材等）	△		○	120	○	○
2 冷媒	▲		○	121	○	○
小計 (○の数をカウント)	2		12		12	13

● CASBEE 学校の評価項目一覧

凡例

○：評価をするもの。

△：評価をしなくてもよいもの（レベル3で評価）。ただし、本手引きの評価シート（新築編に掲載）により、詳細な評価を行うことができる。

▲：評価をしなくてもよいもの（レベル3で評価）。ただし、「CASBEE 既存（簡易版）」により評価を行うことができる。

評価項目	CASBEE 学校				(参考) CASBEE 簡易版	
	改修前		改修後		既存編	新築編
	既存編	ページ	新築編	ページ		
LR3 敷地外環境						
1 地球温暖化への配慮	○	235	○	123	○	○
2 地域環境への配慮						
2.1 大気汚染防止	△		○	127	○	○
2.2 温熱環境悪化の改善	▲		○	128	○	○
2.3 地域インフラへの負荷抑制						
1 雨水排水負荷低減	▲		○	130	○	○
2 排水処理負荷抑制	▲		○	131	○	○
3 交通負荷抑制	△		○	132	○	○
4 廃棄物処理負荷抑制	▲		○	133	○	○
3 周辺環境への配慮						
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						
1 騒音	△		○	134	○	○
2 振動						○
3 悪臭						○
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制						
1 風害の抑制	△		○	135	○	○
2 砂塵の抑制	○	239	○	137	○	○
3 日照障害の抑制	○	241	○	139	○	○
3.3 光害の抑制						
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	△		○	140	○	○
2 屋光の建物外壁による反射光（グレア）への対策	△		○	143	○	○
小計（○の数をカウント）	3		13		13	15
合計	29		85		88	87

